国立病院機構熊本医療センター

No.230

くまびょうNEWS

NHO KUMAMOTO MEDICAL CENTER　KUMABYO NEWS

発行所
国立病院機構熊本医療センター
〒860-0008
熊本市中央区二の丸１番５号
TEL（096）353-6501（代）
FAX（096）325-2519

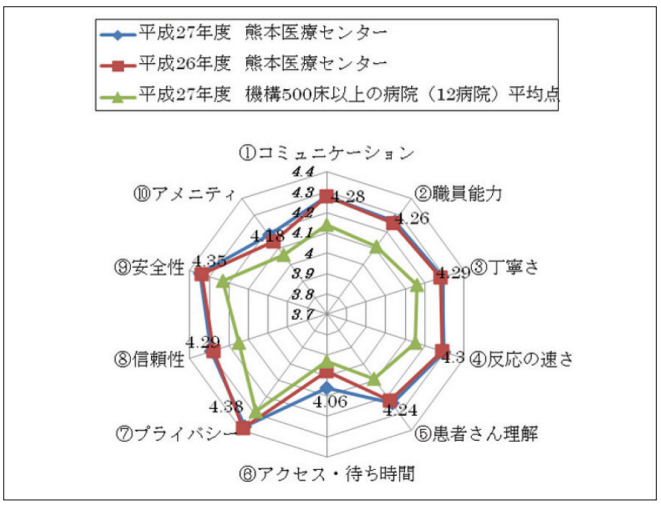
患者満足度調査
国立病院機構500床以上12病院中トップになりました

当院は、病院の評価を行う上で、患者満足度調査をもっとも大事な指標の一つと考えています。しかしながら、平成24年10月に行われました患者満足度調査の結果では、当院は国立病院機構の500床以上13病院の中で、外来は６位、入院は８位でした。この結果を踏まえて、平成25年度の年頭の院長挨拶で、当院は患者満足度世界一の病院を目指し、まず国立病院機構500床以上の病院トップを獲得しようと宣言しました。それからわずか３年、平成27年の患者満足度調査結果が発表され、当院は国立病院機構500床以上の12病院中、外来、入院ともに1位を達成しました。これは、素直に職員全員が、努力した結果だと思いますとともに、当院をご利用いただく多くの患者様や、開放型病院の皆様からのご指摘、ご忠告などのご支援のおかげと深く感謝申し上げます。

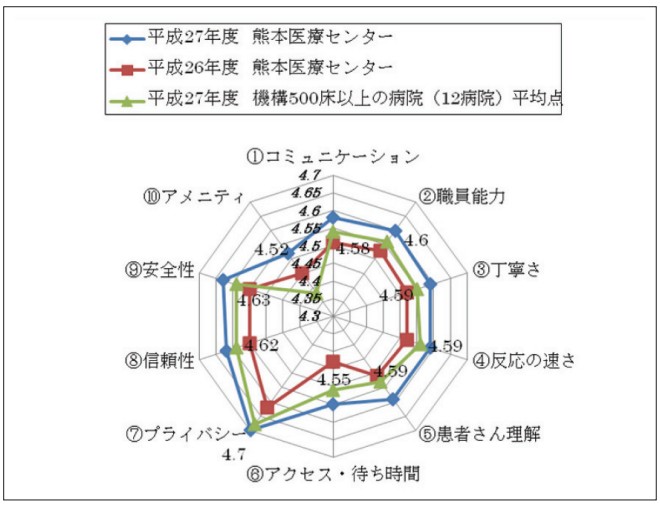
しかし、喜んでばかりはおられません。なんせ目標は世界一です。その前に、まだ達成しなければいけない目標があります。それは、国立病院機構143病院でのトップです。今回は、入院は140病院中22位、外来は143病院中18位でした。上には上があります。

今回の集計結果を、つぶさに分析し、足りない点、反省する点をしっかり取りだしてさらに改善し、さらに大きな目標に向かって努力したいと思います。皆様のご協力、ご支援をお願いいたします。　　（院長　河野文夫）

外来



入院



基本理念

最新の知識・医療技術と礼節をもって、
良質で安全な医療を目指します。

運営方針

1．良質で安全な医療の提供
2．政策医療の推進
3．医療連携と救急医療の推進
4．教育・研修・臨床研究の推進
5．国際医療協力の推進
6．健全経営

患者様の権利

1．良質かつ適切な医療を公平にうける権利があります
2．ご自身の医療について理解しやすい言葉と方法で十分な説明と情報を受ける権利があります
3．病院から説明と情報を得た上で、自らの意志で治療を受け、あるいは選択し、拒否する権利があります
4．自分の診療記録の開示を求める権利があります
5．セカンド・オピニオンを求める権利があります
6．個人としての人格の尊重とプライバシーの保護を受ける権利があります

VOICE
登録医の声

「雨ニモマケズ・・・」

悠愛病院
院長　松岡　良一

震災の後遺症はまだまだ生々しく、わたくしの勤務する悠愛病院でも、未だに、他の医療介護施設からの避難患者さんをお預かりしており、早く安心した生活が送れる環境になってほしいと毎日の診療を続けております。

街中には震災後の復興を目指して、「がまだせ、熊本！」のスローガンをよく目にします。このスローガンを見る時、わたくしの脳裡に浮かぶのが、宮澤賢治の「雨ニモマケズ・・・」の詩です。1900年代初期の郷土（岩手県花巻市）の厳しい環境の中で、貧困のなかにあってもしっかりと生きようとする多くの農民をみて、彼らの支えになりたいという彼の気持ちを素直に表した詩です。

実は、宮澤賢治と地震は深い因縁があるのです。これまで彼の郷土、岩手県は一連の三陸沖地震に何度もみまわれていますが、明治29年（1896年）６月にも三陸地震津波による震災を受け多大な被害を被っています。その時襲った津波の高さは38m（当時観測史上最高）に達し、死傷者は25000人と言われています。この地震の２か月後に宮澤賢治は生まれたのですが、生誕後５日目には陸羽地震（マグニチュード７.2、震度６～７）が発生し、彼の郷土は再度の大被害を受けました。母、イチさんは彼を「えじこ」（乳幼児を保護するかご）に入れ、自らの上体を被いかぶせて必死に彼を守ったそうです。度重なる震災や冷害により困窮生活に追い込まれていた郷土の農民の状況を目のあたりにして、人格的にも成長した宮澤賢治は、弱者への献身的精神を抱き、生涯貫き通したといわれています。

「銀河鉄道の夜」の列車の中で、ジョバンニとカムパネラは「ほんとうのみんなのさいわい」を求めようと決意します。わたくしも一介の医者として、完治できない患者さんとそのご家族の「ほんとうのさいわい」を求めて診療を続けたいと思います。これからも国立病院機構熊本医療センターの皆様のご助力を、宜しくお願い致します。

熊本大学大学院生命科学研究部呼吸器内科学
興梠博次教授の特別講演が行われました

熊本大学大学院生命科学研究部呼吸器内科学教授：興梠博次先生の特別講演が６月29日19時より当院地域医療研修センターホールにて開催されました。演題は「症例から学ぶ：専門性、総合性、統合力、連携を必要とする呼吸器診療」でした。

興梠教授は、昭和52年に熊本大学医学部をご卒業後、第一内科に入局されてから、呼吸器疾患の診療・研究を40年間続けておられ、平成17年からは呼吸器内科学の初代教授をお務めになられています。

ご講演では先生が最も得意とされている喘息と、その周辺疾患との合併あるいはオーバーラップした疾患などを中心に解りやすくご説明いただきました。

講演される興梠博次教授

（副院長　高橋　毅）

職場紹介

管　理　課

管理課は庶務係、給与係、職員係、厚生係で構成されています。各係の主な業務を紹介します。

○庶務係…出張、研修、旅費、宿舎、出勤簿（休暇簿等整理）、行事予定、各種届、施設管理、救急医療支援業務、院内警備等の職員の庶務全体に関すること。

○給与係…職員の採用や退職等に係る手続、給与・諸手当等の支給に関すること。

○職員係…職員の勤務時間管理(勤務割、勤務線表等)、安全衛生、災害補償、院内保育所に関すること。

○厚生係…職員の福利厚生、健康管理、共済の医療保険や年金等に関すること。

また、防災センターや研修センター、図書室も管理課に属しており、配属された管理課職員が管理運営に努めています。

当院のモットーである、「職員に優しい病院」を支える部署として「職員に優しい管理課」として努めていきたいと考えていますので、今後ともよろしくお願いします。

（庶務班長　今村宏次）

脳神経センター

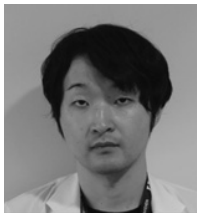
脳神経センターは、「24時間断らない医療」を念頭に、救急疾患は言うまでもなく一般脳神経疾患に対応します。神経内科と脳神経外科による連携はスムースであり、常時、共同して診療に当たっております。一応の診療区分としては、**脳梗塞や頭痛は神経内科で、脳出血や脳腫瘍等など器質的脳疾患は脳神経外科で診療します。**しかし、センター内で適宜ご紹介の内容を吟味しながら診療科の振り分けを行いますので、直接センター宛ご紹介で全く構いません。

≪脳神経外科≫

脳腫瘍をはじめほぼ全ての頭蓋内器質性疾患に対応可能ですが、脳卒中と頭部外傷に関連する手術件数が最多となっています。**脳虚血性疾患に対する血行再建術、特に、内頸動脈剥離術CEAについては、全例内シャント使用下で手術を行い、血行遮断による脳虚血の予防に努めています。また、脳動脈瘤手術については、低侵襲手術として先駆けて、10年ほど前から破裂瘤についてもkehole開頭（４㎝皮膚切開，2.5㎝径の小骨切開）の動脈瘤クリッピング術を開発し、実績を重ねています。**

部長
大塚忠弘（おおつかただひろ）

医長
坪田誠之（つぼた のぶゆき）

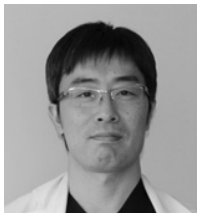


医師
松﨑啓亮（まつざきひろあき）

≪神経内科≫

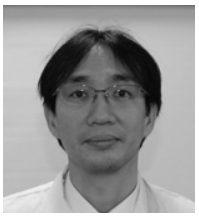
中枢神経（脳・脊髄）から末梢神経、骨格筋にいたるまでの内科疾患を担当しています。**最も多いのは脳梗塞を始めとする虚血性脳卒中ですが、毎年300例以上の入院があり、昨年度は400例に達しました。その中でも脳梗塞超急性期に施行するrtPA静注療法に関しては過去最高の26例に対して施行しました。**また、救急疾患である脳炎・髄膜炎やてんかんなどについても、数多く診療しております。

また一般外来診療に関しては、上記の救急疾患以外にも、パーキンソン病を始めとする神経難病や頭痛などの機能性疾患など、多様な疾患に対して、診療を行っております。

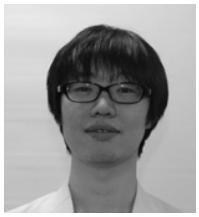


医長
田北智裕（たきたともひろ）

医長
平原智雄（ひらはらともお）

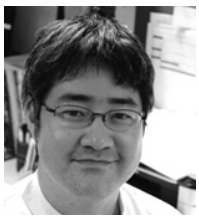


医長
西 晋輔（にし しんすけ）



医師
原健太朗（はらけん たろう）

非常勤医師
俵　哲（たわら さとる）



非常勤医師
小阪嵩幸（こさかたかゆき）

新任職員紹介

総合診療科医長
辻（つじ） 隆宏（たかひろ）

平成28年７月より、勤務させていただくことになりました総合診療科の辻隆宏と申します。平成11年鹿児島大学第二内科に入局後、地域の中核病院を２年間研修し、卒後５年目から血液疾患を中心に診療して参りました。平成16年からは、熊本大学血液/膠原病/感染免疫診療部に所属し、平成18年から、熊本市民病院血液・腫瘍内科で血液疾患や膠原病、緩和ケア領域の診療に従事しておりました。これまでの診療経験を生かして、皆様のお役にたてるよう努めて参ります。よろしくお願いいたします。

外科
清水（しみず） 健次（けんじ）

このたび震災の影響で熊本市民病院より異動となりました外科の清水健次と申します。消化器外科を専門としており腹腔鏡手術をスペシャリティーとしています。これまで熊本大学病院、熊本赤十字病院、済生会熊本病院、公立多良木病院、熊本市民病院で外科診療に従事し、がん診療に加え救急診療や災害医療に携わって参りました。熊本地震での避難所の巡回診療や災害支援本部での活動では、東北大震災時の災害救援で得た知識と経験が生かされたと感じました。一日も早く地域の皆様に信頼される医療を提供できるよう精一杯取り組んでいく所存です。ご指導ご鞭撻の程をよろしくお願い申し上げます。

放射線科
二ノ村（にのむら） 聖（さとし）

平成28年７月より放射線科で勤務させて頂くこととなりました二ノ村聖と申します。平成24年に久留米大学を卒業後、熊本大学医学部附属病院と熊本赤十字病院にて初期研修を行い、熊本大学放射線科に入局しました。入局後は大学病院、熊本労災病院、熊本市民病院で勤務させて頂きました。当院での勤務は初めてであり、身の引き締まる思いです。放射線科医としては３年目でまだまだ未熟なところも多く、皆様にご迷惑をおかけすることもあるかと思いますが、熊本医療センターの一員として真摯に医療に取り組んで参りたいと思います。どうぞよろしくお願い致します。

地域医療連携室直通電話をご利用下さい

先生方には日頃より患者様の御紹介を頂きありがとうございます。

この度、代表電話からの地域医療連携室へのお電話が繋がりにくいとのご指摘を受け、直通電話を設置する運びとなりました。

この直通電話は、**関係医療機関の皆様から頂くお電話のみ**をお受け致します。患者様からの直接のご相談は、これまでどおり代表電話を通じて承る予定です。

医療機関の皆様のための直通電話になります。ホームページ等では公表いたしておりませんので、ご了承下さい。

今後ともよろしくお願い申し上げます。

地域医療連携室直通電話　096-353-6693

月～金（祝日を除く）AM８：30～PM５：00

七夕コンサートが行われました

７月７日（木）13時30分から、ボランティアで活動されている「美齢重（ミレージュ）」の皆さんによるトーンチャイム演奏の七夕コンサートが、外来フロアで行われました。入院患者さまやご家族、外来受診の患者さまや職員も含めて50名近い方々にお集まりいただきました。

美齢重はグループを結成されて14年になり、これまでの演奏回数は700回を超えるとのことです。当院でも、３年前より、七夕コンサート、クリスマスコンサートで演奏して頂いております。当日は60本以上のトーンチャイムを持ってこられ５人で音をつなげながら演奏されました。

七夕コンサートの様子

まず始めに唱歌から、ふるさと、早春賦、さくら、夏は来ぬ、たなばたさま、夕焼け小焼けが演奏されました。用意された歌詞カードを見ながら皆さんも一緒に歌われました。それから、ポピュラー＆映画音楽から、コンドルは飛んで行く、ミシェル、ムーンリバー、星に願いを、クラシックからバッハのG線上のアリア、アニメソングからサザエさんの曲等が演奏されました。１時間という短い時間でしたが、トーンチャイムの優しい音色に皆さん心安らぐ時間を過ごされたようで、コンサート終了後に「元気を頂きました」、「是非クリスマスコンサートも聴きに来たい」との感想を頂き、大盛況に終わりました。　　（庶務班長　今村宏次）

七夕飾りを行いました

７月１日～８日までの期間、小児科病棟と外来待合室に「七夕飾り」を設置しました。外来の七夕飾りは今年で３年目を迎え、今年は準備の段階から手の込んだ“あみかざり”や“ペーパーフラワー”を作りました。梅雨の晴れ間をぬって敷地内から切ってきた笹の木に、色とりどりの飾り付けを行い、皆さんが自由に願いごとをかけるように例年より多い短冊を準備しました。しかし、週明けには短冊がなくなり、毎日補充しても足りないくらいに笹の枝は願いごとでいっぱいになりました。

小児科病棟の七夕飾り

外来待合室の
七夕飾り

また、小児科病棟では、入院患者さんにも手伝ってもらい、病棟内の２カ所に七夕を設置しました。各病室に短冊を配り、ほぼ全員の患者さんやご家族に願いごとを書いてもらいました。にぎやかな七夕飾りに混じって、子供達のかわいい願いごとがほほえましく飾られていました。

書かれた短冊を見ると病気のことや健康に関する願いごとが多く書かれていましたが、今年は熊本地震後であり、一刻も早く復興することや日常が取り戻せますようにとの願いもみられました。短期間ではありましたが、多くの皆さまが季節を感じ、喜んでいただけたのではと思います。

（副看護部長　田﨑ゆみ）

医療安全研修会を行いました

医療安全研修会は年に２回、全職員を対象とした研修会で、患者さんに安全な医療を提供できるよう職員の能力向上を目的に実施しています。今年度第１回目は６月22日、30日、７月６日、８日に行いました。参加者数は、医師、コメディカル、看護職員、事務職員など合計784名でした。

前半は「個人情報の取り扱い」について、個人情報の取り扱いルール、データ持ち出しの禁止、USBメモリの管理、FAX送信時の確認徹底など具体的に説明しました。後半は「患者確認の方法」について、採血時、与薬時、配膳時、電話対応時、書類を扱う時の確認手順を動画などで説明し、実際に参加者同士で患者確認を演習し、理解を深めました。全職員が同じ手順で患者確認し、お互いに注意喚起し合える風土作りを目標とし終了しました。

医療安全研修会会場の様子

ロールプレイングの様子

医療従事者は、患者さんの大事な個人情報を取り扱っているという自覚を持って対応すること、また患者確認は、医療を行う時の基本行動として習慣化することが必要です。全職員がルールを遵守し、安全に医療が行われるよう働きかけて行きたいと思います。

（医療安全管理係長　堂園千代子）

縫合実習を行いました

６月13日（月）午後１時より午後４時まで歯科研修医を含む約40名の研修医が参加し縫合実習が行われました。本年度より、研修協力施設である公立玉名中央病院と荒尾市民病院にお声かけしたところ、両施設から計６名の１年次研修医が参加し、当院研修医とともに和気藹々とした実習となりました。その他、当院でクリニカルクラークシップ中の熊大医学生も数名参加しました。１年次は、糸結びや縫合練習キットを用いた実習、また、２年次には腸管模型を利用した縫合訓練の機会もありました。有志の２年次諸君には、実習指導者として参加して貰いましたが、彼／彼女らの１年間の成長ぶりを頼もしく思いました。

指導を受ける研修医

和気藹々とした実習の様子

ご多忙にもかかわらず、形成外科からは縫合手技についてミニレクチャーをして頂いた大島先生をはじめ、東野先生、加来先生、また、外科からは、宮成先生、志垣先生、杉原先生に大変お世話になり、お礼申し上げます。毎回、実習に必要な全ての機材を準備して頂いたコヴィディエン ジャパン株式会社およびスタッフの方々にも深謝します。この実習の機会が縫合に対する理解の一助となればうれしく思います。

（教育研修部長　大塚忠弘）

熊病の歴史

臨床研究部

当院は1985年４月に蟻田功院長が就任して以来、国際医療協力、特に、開発途上国の医療従事者の研修に力を注いできていました。1986年４月には、当時厚生省から国際医療協力基幹施設に指定されています。同年７月には国際医療協力の一環として中華民国からの海外技術研修員（医師）を初めて受け入れました。翌1987年には当院からの海外派遣第１号として梅木民子看護婦がザンビアに２年間国際協力事業団（Japanese International Cooperation Agency：JICA）の医療技術専門家として派遣されました。1988年には海外からの研修生の日本での臨床実習を可能とする臨床修練病院の指定を受けました。同年から海外派遣が本格化し、蟻田院長の湾岸戦争時の現地派遣、松村克巳医師（前小国公立病院長）のセネガルへの無償援助による新設病院の調査などが行われました。また、この年に国際医療協力を大幅に発展させる原動力となった財団法人国際保健医療交流センター（Agency for Cooperation in International Health：ACIH）が設立され蟻田院長が顧問に就任されました。

上記国際医療協力の実績を背景に、1993年10月に臨床研究部が創設されました。当初は、当時の宮崎久義院長が事務取扱となり、1994年４月から河野文夫現院長が初代臨床研究部長に就任しました。

本臨床研究部の研究テーマは、発展途上国の医療協力に必要不可欠な領域の「感染症」が主体で、開発途上国におけるC型肝炎やHIV感染の疫学研究を行うと同時に、院内感染予防の国際ネットーワークを形成してきました。2000年10月にはエジプトのスエズ運河大学病院、2002年５月には中国の広西医科大学と姉妹病院の締結を行っています。2008年４月からは河野副院長（臨床研究部長兼任）が副院長専任となり、外科医長芳賀克夫が臨床研究部長に昇任しています。同時に、外科系診療の質の評価が研究テーマとして加わっています。2009年11月には、タイの国立コンケン病院、エジプトのファイユーム大学病院と姉妹病院の締結を行いました。

2006年４月から、熊本大学大学院医学教育部に連携大学院「外科学再建医学講座臨床国際協力学分野」を開講しています。これは熊本医療センターの職員が働きながら、医学博士号を取得するための講座です。同分野では、客員教授１名（芳賀克夫臨床研究部長）、客員准教授２名（高橋毅副院長、武本重毅検査科長）の教官体制で、現在まで３名の医学博士を輩出しました。姉妹病院である国立コンケン病院からは、2010年に看護師のラティオン女史が連携大学院の留学生となり、武本重毅准教授の指導のもと、成人T細胞白血病の研究に従事しました。2014年には、無事医学博士号を取得しています。その後ラティオン女史は帰国し、国立コンケン病院の高齢者医療の責任者として活躍しています。現在、連携大学院には、救急科医師４名（原田、櫻井、北田、山田）が院生として研究に従事しています。

（臨床研究部長　芳賀克夫）

いま、国立病院機構
熊本医療センターで
何が研究されているか

シリーズ106回

当院での摂食嚥下障害患者の現状と課題

摂食・嚥下障害看護認定看護師　田平佳苗

当院では、H27年２月より摂食・嚥下障害看護認定看護師が歯科口腔外科に配置となり、摂食嚥下に関するサポートを行っています。今回、摂食嚥下障害看護の取り組みを通して得た当院の問題点や今後の課題について検討したので報告します。

【目的】摂食嚥下障害患者への介入から、看護上の問題点や今後の課題について明らかにすることを目的としました。

【方法】期間：平成27年４～９月、対象：嚥下評価依頼患者292名、データ収集方法：①摂食嚥下能力を藤島の摂食嚥下能力のグレードを用いて、介入前後と転帰時の３時点で評価し、比較する。②介入後に口腔内の環境をOral Health Assessment Tool（以下OHAT）を用いて評価。③重症度、医療・看護必要度（以下看護必要度）の「口腔清潔」評価、口腔ケアの看護指示入力の有無、口腔ケアの準備状況から検討しました。

【結果】摂食嚥下能力は、図１に示す通りで、各期の割合の高かった摂食嚥下能力グレードをみると、介入前はⅠの重症が82%、介入後はⅡの中等症が58%、退院や転院等の転帰時はⅢの軽症が46％でした。OHATは、口腔清掃が1.14で清掃が不十分でした（図２）。看護必要度は95.9%が「口腔清潔ができない」と評価しており（図３）、その内口腔ケアの看護指示入力は53.9%（図４）、口腔ケアの必要物品が準備されているのは27.1%（図５）でした。

【考察】摂食嚥下能力は、経過するに従って「経口摂取できる」能力の割合が高くなっていましたが、転帰時にⅠの重症の割合が増えていました。これは、Ⅱの「Gr4：楽しみとしての摂食は可能」「Gr5：一部（１～２食）経口摂取」と評価された患者に対する介入の未実施、不適切な介入があったことが考えられます。

嚥下評価依頼患者の看護必要度は、ほとんど「口腔清潔ができない」と評価されていますが、OHATで口腔清掃が十分でないという結果から看護介入が不十分であることがわかりました。また、看護指示への未入力から日々の看護が実施できないことと、ケアに必要な物品の不足から実施しようとしても適切な方法で実施できない状況にあるのではないかと考えられました。

【結論】１.摂食嚥下能力は、経過するに従って「経口摂取できる」能力の割合が高くなっていましたが、口腔清掃が出来ない患者に適切な看護介入ができていませんでした。

２.看護師の口腔ケアへの意識を高め、安全に摂食嚥下ケアを実践できる看護師を育成していくことが今後の課題です。

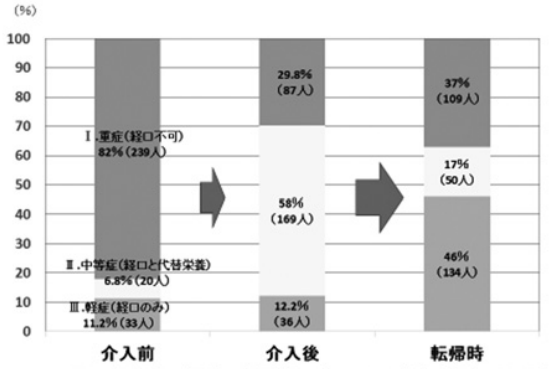


図1　各期毎の摂食・嚥下能力グレードの割合（藤島,1993.）

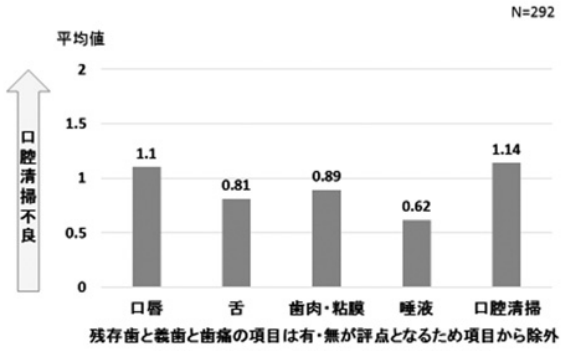


図2　OHAT　各項目の評価（平均点）

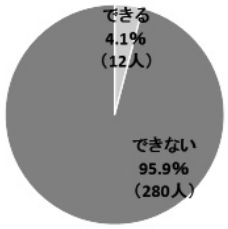


図3　看護必要度の評価項目
口腔清掃　N＝292

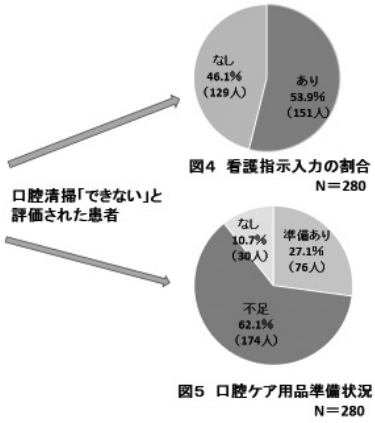


図4　看護指示入力の割合
N＝280

図5　口腔ケア用品準備状況
N＝280

研修医レポート

臨床研修医
平尾（ひらお） 洸樹（ひろき）

こんにちは。熊本高校、熊本大学出身の研修医１年目の平尾洸樹と申します。今年の４月から熊本医療センターで研修させていただいています。医師の業務・手技に挑戦するもまだまだわからないことが多く、スタッフの方々の温かいご指導が励みになっています。

研修開始からまだ２か月しか経っていませんが、熊本を襲った地震もあり大変濃厚な２か月でした。オリエンテーションも終わらぬ間に熊本地震が起こり、まだ右も左も分からないまま災害モードに突入しました。地震当日のこれからどうなってしまうのだろうという不安感、院内の張りつめた緊張感は忘れることができません。自身の環境、家族の環境も脅かされる中での業務は不安でいっぱいでしたが、スタッフ方々の協力、熊本医療センターからの支援体制もあり、目の前の患者さんに集中することができました。

その後通常研修が再開され、最初に回った麻酔科では末梢静脈路確保に始まり気管挿管、腰椎穿刺、動脈穿刺などリスクの高い手技を毎日経験させていただきました。麻酔科の先生方の熱心なご指導のおかげで、ローテート終了日までには各手技の基本を押さえることができました。手技だけでなく、患者さんの全身管理についても熱心に指導していただき、ヴァイタルなどから患者さんの状態を評価をする方法も学ぶことができました。

今週から腎臓内科ローテートが始まり、指導医の先生方から病棟業務・透析管理について現在熱く教わっております。まだまだ分からないことばかりですが、１日でも早く医師としての能力を身につけることができるよう努力をしていきますので、今後ともご指導ご鞭撻のほどよろしくお願いいたします。

臨床研修医
児嶋（こじま） 美紀（みき）

こんにちは。研修医１年目の児嶋美紀と申します。熊本大学を卒業し、あらたに４月から熊本医療センターで初期臨床研修をさせていただいています。

４月はオリエンテーションに始まり、12日から循環器内科のローテートがスタートしました。不慣れな病棟業務に四苦八苦しながら始まった週に、熊本地震が発生しました。発生時には自宅にいましたが、幸い怪我はなく、混乱しながらも研修医の同期たちと共に病院へ自主参集しました。医師と書かれたゼッケンを付けた時には、その責任の大きさに不安になったことを覚えています。経験豊富なスタッフの方々の指示の下、微力ながらも傷病者の対応に尽力させていただきました。

その後しばらく研修医は救急部専属となり、救急の先生方や救急部配属になった各科の先生方、スタッフの方々には大変お世話になりました。震災という混乱の中で医療者として働いたことで、医師としての心構えとあり方を改めて考えさせられました。

震災も落ち着いたころ、循環器内科のローテートが再開されました。震災の影響で患者さんの数が例年よりも増える中、指導医の先生をはじめ、スタッフの皆さんが熱心に指導してくださいました。利尿薬や降圧薬などの使い方・考え方にはじまり、静脈穿刺の方法やコツ、心エコーの取り方、各疾患に対する考え方とその対応の仕方、気を付けるべきことなどさまざまなことを教えていただきました。まだまだ未熟で、見当違いなことを言うことも多かったと思うのですが、指導医の先生が根気強くご指導くださり、大変充実した研修となりました。

現在は救急診療科で研修をしています。充実した研修になるよう、今後も精一杯励みますので、ご指導ご鞭撻のほどよろしくお願いいたします。

研修のご案内

第210回　月　曜　会（無料）
（内科症例検討会）
［日本医師会生涯教育講座1.5単位認定］

日時▶平成28年８月15日(月)19：00～20：30
場所▶国立病院機構熊本医療センター研修室２

１．内科基礎講座　診療で遭遇した興味ある症例の検討を行います。
「第１症例　劇症１型糖尿病」　国立病院機構熊本医療センター糖尿病・内分泌内科医長　木下博之
「第２症例　ステロイド治療中の肺炎」
国立病院機構熊本医療センター呼吸器内科医長　名村　亮
２．ミニレクチャー「消化管疾患のトピックス」
国立病院機構熊本医療センター消化器内科医長　浦田昌幸

日頃、疑問の症例、興味のある症例、X線、心電図、その他がございましたら、ご持参いただきますようお願い致します。

〔問合せ先〕国立病院機構熊本医療センター統括診療部長　清川 哲志　TEL：096-353-6501(代表) FAX：096-325-2519

第148回　救急症例検討会（無料）

日時▶平成28年８月24日(水)18：30～20：00
場所▶国立病院機構熊本医療センター地域医療研修センター

症例検討「 頭頸部救急疾患 」
国立病院機構熊本医療センター歯科口腔外科部長　中島　健
国立病院機構熊本医療センター耳鼻咽喉科医長　上村尚樹

医師、薬剤師、看護師、放射線技師、臨床検査技師、栄養士、救急隊員、事務部門等、全ての医療従事者を対象とした症例検討会です。医師以外の方にも理解できるよう配慮した内容にしています。
事前参加のお申し込みは必要ありませんので、ご自由にお越しください。

〔問合せ先〕国立病院機構熊本医療センター 地域医療研修センター事務局 TEL 096-353-6501(代表)内線2630　096-353-3515(直通)

第179回　三　木　会（無料）
（糖尿病、脂質異常症、高血圧を語る会）
［日本医師会生涯教育講座1.5単位認定］
［日本糖尿病療養指導士認定更新のための研修単位＜２群＞0.5単位認定］

日時▶平成28年８月25日(木)19：00～20：45
場所▶国立病院機構熊本医療センター研修室２

１．「重症糖尿病ケトアシドーシスの管理」
国立病院機構熊本医療センター糖尿病・内分泌内科　大塚康弘
２．「高齢者糖尿病の血糖コントロール目標」
国立病院機構熊本医療センター糖尿病・内分泌内科部長　西川武志

なお、興味のある症例、疑問・質問のある症例がございましたら、お持ちいただきますようお願い致します。

〔問合せ先〕国立病院機構熊本医療センター糖尿病・内分泌内科部長　西川 武志 TEL 096-353-6501(代表)内線5441

共同指導をご活用下さい

先生方には日頃より患者様のご紹介を頂きありがとうございます。

共同指導は、かかりつけ医からのご紹介の患者様がご入院された場合、ご紹介を頂いた先生に当院にお越し頂き、当院の担当医師と共同で診療を行うものです。患者様はかかりつけ医と当院の担当医師とで情報交換を行うことにより、入院中および退院後の治療をよりスムーズに受けることができます。

ご紹介頂いた患者様がご入院されましたら、共同指導のご案内をFAXさせて頂きますので、ご活用下さい。

※共同指導を行う為には登録医になって頂く必要があります。申込用紙に必要事項をご記入頂くだけで結構ですので、地域医療連携室（096-353-6693）にお気軽にお問い合わせ下さい。

当院へご紹介頂いた患者様の最善の治療を行うために共同指導の制度を是非ご活用下さい。

地域医療連携室長　清川　哲志

2016年 研修日程表 8月

国立病院機構熊本医療センター　地域医療研修センター

8月	研修センターホール	研　修　室
1日 (月)		
2日 (火)		
3日 (水)		
4日 (木)	7：30～8：15　二の丸モーニングセミナー 「災害医療」 国立病院機構熊本医療センター救命救急科	
5日 (金)		
6日 (土)		
7日 (日)	13：00～15：30　第140回 公開看護セミナー（4/16分振替） 「地域包括ケアにおける看護の役割」 ～今こそ地域とつながる看・看連携～ 九州看護福祉大学生涯教育研究センター准教授　開田ひとみ	
8日 (月)		
9日 (火)		
10日 (水)		
11日 (木)		
12日 (金)	7：30～8：15　二の丸モーニングセミナー 「呼吸管理」 国立病院機構熊本医療センター麻酔科	
13日 (土)		
14日 (日)		
15日 (月)		**19：00～20：30　第210回 月曜会（内科症例検討会）（研２）** **［日本医師会生涯教育講座1.5単位認定］**
16日 (火)		
17日 (水)	14：00～15：00　第41回 市民公開講座 「がん患者の心のケア」 国立病院機構熊本医療センター腫瘍内科部長　境　健爾	
18日 (木)	7：30～8：15　二の丸モーニングセミナー 「外傷診療」 国立病院機構熊本医療センター外科 20：00～21：30　第73回 医歯連携セミナー 「薬剤誘発性顎骨壊死（MRONJ）の臨床」 九州歯科大学口腔外科教授　冨永和宏	
19日 (金)		15：30～16：45　肝臓病教室（研２） 「慢性肝炎・自己免疫性肝疾患について」
20日 (土)	14：00～16：00　第271回　熊本県滅菌消毒法講座 「滅菌技士会の設立と今後の活動について」	
21日 (日)		
22日 (月)		
23日 (火)	18：30～20：30　血液研究班月例会	
24日 (水)	**18：30～20：00　第148回 救急症例検討会** **「頭頸部救急疾患」**	
25日 (木)	7：30～8：15　二の丸モーニングセミナー 「循環器疾患」 国立病院機構熊本医療センター循環器内科	**19：00～20：45　第179回 三木会（研２）** **（糖尿病、脂質異常症、高血圧を語る会）** **［日本医師会生涯教育講座1.5単位認定］** **［日本糖尿病療養指導士認定更新のための研修単位＜２群＞0.5単位認定］**
26日 (金)		
27日 (土)	8：50～17：20　第5回 すべてのナースのためのエンド・オブ・ライフ・ケア － ELNEC-J in KMC －（１日目）	
28日 (日)	8：30～16：30　第5回 すべてのナースのためのエンド・オブ・ライフ・ケア － ELNEC-J in KMC －（２日目）	
29日 (月)		
30日 (火)	**19：00～20：30　第89回 特別講演** **「HTLV-1と成人細胞白血病」** **熊本大学大学院生命科学研究部血液内科学教授　松岡雅雄**	
31日 (水)		

研１～３　２階研修室１～３

※二の丸モーニングセミナーにつきまして、詳細はホームページ（http://www.nho-kumamoto.jp/）をご参照ください。

問い合わせ先　〒860-0008　熊本市中央区二の丸１番５号　国立病院機構熊本医療センター２階　地域医療研修センター TEL 096-353-6501（代）内線2630　096-353-3515（直通）